

## 第5回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年7月18日（木）  
午後5時30分～6時50分  
会場：core 塩尻

### 次 第

1. 開 会

2. 挨拶

3. 新構成員紹介

4. 会議事項

(1) 第4回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ

(2) 学びのイメージに係る意見交換

5. その他

次回の予定

【日時】 令和6年10月23日（水） 午後5時30分～6時50分

【場所】 core 塩尻

【内容】 学びのイメージに係る意見交換

（予定） 学びや取り組みの具体化

○ キャッチコピー 全体討議

○ 「生徒がどんなことができる高校にしたいか」グループワーク

6. 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

## 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

(敬称略)

	区分	氏名 (座長○)	所属等	グループ
1	自治体	石坂 健一	塩尻市 副市長	D
2		○ 赤羽 高志	塩尻市教育委員会 教育長	C
3		根橋 範男	山形村教育委員会 教育長	B
4		百瀬 司郎	朝日村教育委員会 教育長	A
5		太田 幸一	塩尻市産業振興事業部先端産業振興室 室長	E
6	産業界	小松 稔	塩尻商工会議所 会頭	A
7		林 修一	塩尻市観光協会 会長	B
8	学識 経験者	渡邊 修	信州大学農学部農学生命科学科 准教授	欠
9		小林 敏一	エプソン情報科学専門学校 学校長	欠
10	地域	中島 紀彦	セイコーエプソン株式会社P総務部 部長	C
11		松本 宏隆	セイコーエプソン株式会社P事業戦略推進部 部長	欠
12		横山 暁一	NPO法人MEGURU 代表理事	D
13		宮島 克夫	松本地域振興局 局長	欠
14	同窓会	赤羽 誠治	塩尻志学館高等学校同窓会 会長	欠
15		霜田 美奈	田川高等学校同窓会 会長	E
16	PTA	押田 博	塩尻志学館高等学校PTA 会長	D
17		菱田 岳士	田川高等学校PTA 会長	B
18		北沢 寿明	東筑摩塩尻PTA連合会 会長	A
19	小中学校 関係者	千村 哲朗	東筑摩塩尻校長会 代表 (広丘小学校 校長)	E
20		佐倉 俊	東筑摩塩尻校長会 代表 (塩尻中学校 校長)	C
21		永田 寛尚	松本養護学校 校長	欠
22	再編 対象校	要明 幸樹	塩尻志学館高等学校 生徒代表	C
23		齊藤 正太	塩尻志学館高等学校 生徒代表	A
24		金 彰俊	田川高等学校 生徒代表	B
25		竹内 輝隆	田川高等学校 生徒代表	E
26		堀内 雅司	塩尻志学館高等学校 校長	B
27		宮入 清志	塩尻志学館高等学校 教職員	E
28		宮坂 幸登	田川高等学校 校長	C
29		守屋 秀行	田川高等学校 教職員	A

## 事務局

塩尻志学館高等学校		田川高等学校		高校再編推進室	
丸山 明久	教頭・事務局長	内川 源弘	教頭・副事務局長	原 多恵子	主幹指導主事
宮入 清志		守屋 秀行		宮嶋 直美	主任指導主事 (塩尻総合学科新校担当)
寺澤 顕孝				山崎 巖	主任指導主事 (塩尻総合学科新校副担当)
深澤和加枝					
高山 直之					
跡部 徹					
征矢 理啓					
中島 和成					

## 第4回 塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年5月2日(木) 午後18時から19時30分		
場所	core 塩尻 オープンハブ		
出席 (敬称略)	(構成員) 石坂 健一、赤羽 高志、根橋 範男、百瀬 司郎、小松 稔、渡邊 修、横山 暁一、 宮島 克夫、中野 重則、霜田 美奈、押田 博、菱田 岳士、山田 直幸、千村 哲朗、佐倉 俊、 永田 寛尚、要明 幸樹、布川 龍空、金 彰俊、竹内 輝隆、堀内 雅司、宮入 清志、宮坂 幸登、 守屋 秀行(発表者) 征矢 理啓 (以上 構成員24名 発表者1名)		
欠席 (敬称略)	太田 幸一、塩原 悟文、小林 敏一、中島 紀彦、松本 宏隆 (以上5名)	傍聴者	10名 (内 オンライン1名)
事務局	塩尻志学館高校	丸山教頭(事務局長)、寺澤教諭、深澤教諭、高山教諭、中島教諭	
	田川高校	内川教頭(副事務局長)	
	県教育委員会	原主幹指導主事、宮嶋主任指導主事、山崎主任指導主事	
会議事項	(1) 第3回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 視察報告 (3) 学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	次第、第3回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ(案)、視察報告資料、配席図		

### 主な内容(意見、質問等 →事務局回答)

- (1) 第3回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会まとめ  
第3回懇話会まとめ(資料1)について事務局(県教委)から説明  
質問、意見なし → 承認
- (2) 視察報告 征矢教諭から視察報告(視察報告資料)  
 <山梨県立笛吹高等学校>  
 学科: 普通科 食品化学科 果樹園芸科 総合学科  
 沿革: H22年に石和高等学校、山梨園芸高等学校が統合して笛吹高等学校総合制高校が誕生した。  
 R4年からは文科省より研究開発学校指定校に任命され、教科横断 STEAM 型の新教科「FF グローカル」を設定し、各教科間をつなぎ、教科横断 STEAM 型の探究カリキュラムの開発、実践を行っている。  
 特徴: 地域連携では、外部との繋がりを見える化、データ化して、どの教員でも対応できるよう取り組んでいる。  
 総合学科は学校と生徒のやりたいことが一致して目標に向かうことが大事である。
- <埼玉県立小川高等学校>  
 学科: 普通科  
 沿革: R元年に文科省より「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に指定された。  
 特徴: 「おがわ学」では、小川町、町内小中学校が連携し、地域資源を題材として探究的で協調的な学びを進めている。  
 図書館が非常に大きく学習スペースも充実している。  
 教科指導の上で、探究・地域連携が進む。効果測定のため外部の診断を利用している。
- <筑波大学附属坂戸高等学校>  
 学科: 総合学科  
 沿革: H6年に全国初の総合学科を開設した。  
 特徴: ユネスコスクール認定、SGH、国際バカロレア認定校、19年にはワールドワイドラーニングコンソーシアム構築支援事業実施拠点校となるなど、世界中の学校や地域との交流を通して多様な学びを実践している。  
 総合学科の目的と文科省のやりたいこと(教育課程、IBなど)との親和性は非常に高い。  
 調べれば何でもわかる時代だからこそ、知識習得ではなく探究的な体験が大切である。
- 【質疑】 <小川高校について>
- どのような形で小中高の連携がされているか  
 → 小学校中学校高校で一緒に関わる機会あったり、高校生が小学生や中学生の前で学びを発表したり、小学校中学校で学びをアドバイスをするような機会がある。
  - 外部の効果測定はどのような形で行っているかなど参考に聞きたい  
 → アンケートを実施している。質問項目は、町に対しての印象がどう変わったか、将来町に帰ってきたいかどうかなど率直な質問もある。

### (3) 学びのイメージに係る意見交換

テーマ（「こんな生徒を育てたい」「目指す学校像」「生徒がどんなことをできる高校にしたいか」）についてグループに分かれ意見交換を行った。

#### 【主な意見】

##### テーマ＜こんな生徒を育てたい＞

- コミュニケーション能力が高い生徒
- 話を聞くことができる
- 自分の意見が言える人間の育成
- 探究的に学べる生徒
- 幅広く学び体験する中から、自分のやりたいことを見つけ、とことん追究する生徒
- アイデアが出せる
- 創造力のある生徒
- 大学生のような主体性・自主性のある生徒
- メンタルを強く
- 行動力と発想力
- 社会に貢献できる
- 地域との関わりを大切にできる生徒
- 社会を変えるために学び地域の課題を解決できる生徒

##### 各グループのまとめ

多くの事に関心を持ち主体的に活動し、失敗からも学ぶ姿勢を持てる生徒  
主体性・自主性を持ち地域と関わり、地域の課題を見つけ解決できる生徒  
地域の課題を見つけ、主体的に解決することができる生徒  
学校は「きっかけ」づくり。本当の実践は地域の中で養う。

##### テーマ＜目指す学校像＞

- 頑張りたいことを語れる学校
- やりたいことをやれる「環境・時間」を確保した学校
- 自分の学びたいことを専門的に学び深めることができる学校
- 原点に戻り、進学にこだわらないやりたいことのできる学校
- 自己実現ができる学校
- 自分の考えを自ら発言できる学校
- 自然環境と社会科学を融合できる学校
- 様々なことを学び、生徒自身が主体的に考えることができる学校
- 多様性を受け入れる学校
- 良識や思いやりを育てられる学校
- 他者の意見を尊重しながらお互いの意見を交換できる学校（他者尊重）
- 自ら育てる、他と共に育み合う学校
- 子供だけでなく大人も含めた「学びの場」
- 地域と連携した学校

##### 各グループのまとめ

「地域連携」「中高連携」「公私連携」により、学びの幅を深める。  
多くの選択を繰り返しながらその選択の材料となる「経験」を多く実現できる学校を目指したい  
多様なニーズに応えられ、生徒自身が主体で何でも学べる学校

##### テーマ＜生徒がどんなことができる学校にしたいか＞

- この学校で学びたいという魅力を持った学校
- 「行きたい」と思える学校
- 総合学科発表会のテーマを選ぶだけでなく、自分で決められるなど幅を持った学校
- 校則は生徒が作ることができる学校
- 自己表現を磨ける学び
- 学び→まとめ→伝える（表現）
- 机上の与えられる学力、記憶力を有するだけではなく、社会を広く見ることができる能力
- 「生きる力」を与えられる、また取得できる学校
- 10年後も20年後も学び続けられる
- 地域に貢献できる生徒
- 地域と繋がりのある学校
- 社会と結合できる学校

##### 各グループのまとめ

地域と繋がりや関わりのある学校  
（塩尻のぶどうとワイン、デジタルの先駆けのエプソンと関わる学校）  
「体験」（地域、社会、大人）から学ぶ。朝日、山形、塩尻市をフィールドに学ぶ。  
将来、「学び続けられる力」、「生きる力」を養うために幅広く経験ができる学校

### その他

#### 【次回】

日時：令和6年7月18日（木） 17時30分～18時50分  
会場：core 塩尻  
内容：学びのイメージ（ワークショップ）

# 第5回塩尻総合学科新校再編実施計画懇話会 学びのイメージに係る意見交換

## テーマ

- こんな生徒を育てたい(生徒像)
- 目指す学校像(学校像)

### ▶ 本日のグループワークで目指すこと

じっくりと意見交換をして、キャッチコピーづくりを通して「学びのイメージ」を共有する。

### ▶ 進め方

#### (1) グループワーク

##### ① 意見発表 (目安一人2分 【15分】)

「こんな生徒を育てたい」「目指す学校像」

○○の代表を超えて一人称で 未来志向で 私はこう考える

ご自身の経験、失敗したことを含め今のご自身がある背景、生き方やその経験から生徒にどんな力をつけ(育てたい生徒像)、目指す学校像を、未来志向で語っていただく。(学校のみにとらわれず、さまざまな経験から学びを語る)

##### ② 意見交換話し合い【35分】

キャッチコピーづくり(テーマを選んでキャッチコピーとその解説を作る)

#### (2) 全体会

##### ① グループからの発表(各グループ1分【5分】)

##### ② 全体での意見交換 質疑応答【10分】 「学びのイメージ」の共通のイメージを共有する

---

#### 次回(予定)

- キャッチコピー 全体討議
- 「生徒がどんなことができる高校にしたいか」グループワーク

～こんな学びをしてみたい、こんな学びがあったらいいな～

学びや取り組みの具体化

選んだテーマ 【 】

\* キャッチコピーは複数あってもよい

キャッチコピー

--

解説 (キーワード解説、込めた思い、背景、実現のための提案など)


キャッチコピー

--

解説 (キーワード解説、込めた思い、背景、実現のための提案など)
